DATA
HORIZON

株式会社 データホライゾン

2012年3月期　決算説明会

（証券コード：3628）

2012年5月18日

http://www.dhorizon.co.jp

目次

✓ 1.　2012年3月期　連結業績概要

1　2012年３月期 連結業績概要

2　2012年３月期 サービス・製品別連結売上高

3　2012年３月期 連結営業利益要因分析（対前年比）

4　2012年３月期 保険者別契約実績

5　2012年３月期 連結貸借対照表

6　2012年３月期 キャッシュ・フロー計算書

7　2012年３月期 予想数値と実績値との差異

2.　2013年3月期　連結業績予想

3.　「ヘルスケアやまと」の展開と中期目標

（当説明会資料における金額表記は百万円未満 四捨五入となっております。）

1-1. 2012年3月期 連結業績概要

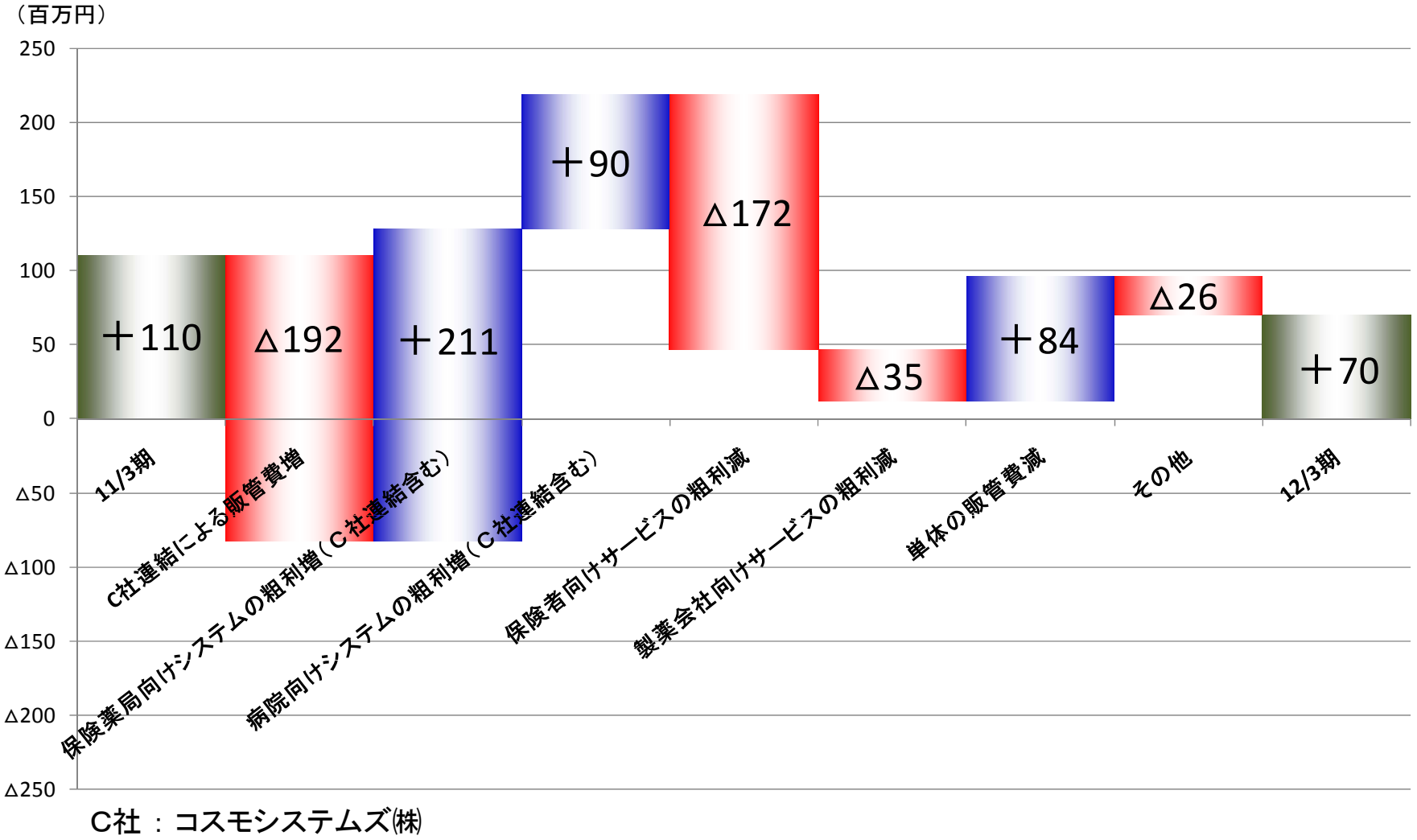
	2011年3月期（実績）		2012年3月期（実績）		増減額（百万円）	増減率（%）
	金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	構成比（%）		
売上高	2,205	100.0	2,147	100.0	△58	△ 2.6
売上原価	1,242	56.3	1,120	52.2	△122	△ 9.8
売上総利益	963	43.7	1,027	47.8	65	6.7
販売管理費	853	38.7	957	44.6	105	12.3
営業利益	110	5.0	70	3.3	△40	△ 36.4
経常利益	106	4.8	58	2.7	△48	△ 45.2
当期純利益	78	3.5	18	0.8	△60	△ 77.4
包括利益	77	3.5	19	0.9	△58	△ 75.1

DATA HORIZON

1-2. 2012年3月期 サービス・製品別連結売上高

	2011年3月期（実績）		2012年3月期（実績）		増減額（百万円）	増減率（%）	主な要因
	金　額（百万円）	構成比（%）	金　額（百万円）	構成比（%）			
保険者向け情報サービス	1,256	57.0	894	41.6	△362	△ 28.8	国民健康保険向けは増加したが、健保組合向けの単価引下げ、契約の未更改により減少
製薬会社向け情報サービス	93	4.2	34	1.6	△59	△ 63.3	前期にあったレセプトデータ化が縮小
医療関連情報サービス 計	**1,349**	**61.2**	**928**	**43.2**	**△421**	**△ 31.2**	
保険薬局向けシステム	441	20.0	762	35.5	322	73.0	前バージョンの保守終了による買替え需要とコスモシステムズ㈱の子会社化で増加
病院向けシステム	216	9.8	333	15.5	117	54.3	仕入商品の拡販で増加
その他	180	8.2	109	5.1	△70	△ 39.2	震災の影響等で医療関連の受託開発が減少
医療関連情報システム 計	**836**	**37.9**	**1,204**	**56.1**	**369**	**44.1**	
医療関連情報事業 計	**2,185**	**99.1**	**2,133**	**99.3**	**△52**	**△ 2.4**	
その他	20	0.9	14	0.7	△5	△ 27.1	
売上高　合計	**2,205**	**100.0**	**2,147**	**100.0**	**△58**	**△ 2.6**	

1-3. 2012年3月期 連結営業利益要因分析(対前年比)



C社 : コスモシステムズ㈱

1-4. 2012年3月期 保険者別契約実績

制度名	保険者名	加入者数（千人）※2008年3月末	2012年3月期 当社契約実績		
			加入者数（千人）	保険者数	レセプト処理件数
健康保険	協会けんぽ（旧政府管掌）	36,294	36,294	全国47支部	1,432万件/年
	健康保険組合	30,860	1,840	26組合	78万件/月
	その他	18	–	–	–
各種共済	国家公務員・地方公務員共済等	9,374	–	–	–
船員保険	国	157	–	–	–
国民健康保険	市町村等	46,881	1,600	107保険者（うち連合会6県）	195万件/月

DATA HORIZON

1-5. 2012年3月期 連結貸借対照表

	2011年3月期（実績）		2012年3月期（実績）		増減額（百万円）	主な要因（百万円）
	金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	構成比		
流動資産	1,031	62.5%	1,106	63.3%	75	現金及び預金の増加105、売掛金の減少34
固定資産	619	37.5%	642	36.7%	22	新製品開発のためのソフトウエア仮勘定の増加63、減価償却が進み有形固定資産が31減少
資産合計	**1,651**	**100.0%**	**1,748**	**100.0%**	**97**	
流動負債	420	25.4%	557	31.9%	138	短期借入金の増加80、買掛金の増加30等により増加
固定負債	117	7.1%	118	6.8%	1	
負債合計	**536**	**32.5%**	**675**	**38.6%**	**139**	
資本金	454	27.5%	454	26.0%	-	
資本剰余金	154	9.3%	154	8.8%	-	
利益剰余金	560	33.9%	516	29.5%	△43	当期純利益18、前期期末配当金△62
自己株式	△52	△3.2%	△53	△3.0%	△0	
株主資本	**1,116**	**67.6%**	**1,072**	**61.3%**	**△43**	
その他の包括利益累計額	**△2**	**0.0%**	**△0**	**-0.1%**	**2**	
少数株主持分	0	0.0%	0	0.0%	△0	
純資産合計	**1,114**	**67.5%**	**1,073**	**61.4%**	**△42**	
負債・純資産合計	**1,651**	**100.0%**	**1,748**	**100.0%**	**97**	

1-6. 2012年3月期 キャッシュ・フロー計算書

金額単位：百万円

	2011年3月期（実績）	2012年3月期（実績）	増減額	主な要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	**115**	**250**	**135**	
税金等調整前当期純利益	119	61	△59	
減価償却費	106	115	9	
負ののれん発生益	△30	-	30	前期は、コスモシステムズ㈱買収による負ののれん
売上債権の増減額	142	34	△108	売掛金の回収による減少
たな卸資産の増減額	98	8	△90	前期は、ジェネリック医薬品通知サービスの仕掛品の減少94
仕入債務の増減額	△82	30	112	2010/3期末にジェネリック医薬品通知サービスの仕入債務が増加していたため
その他	△35	45	80	
小計	**318**	**292**	**△26**	
法人税等の支払額	△200	△48	152	
その他	△3	6	9	
投資活動によるキャッシュ・フロー	**△117**	**△133**	**△16**	
投資有価証券の取得による支出	-	△10	△10	
有形固定資産の取得による支出	△59	△15	44	前期は、本社拡張等の設備投資による有形固定資産の取得
無形固定資産の取得による支出	△80	△99	△19	新製品開発のソフトウェア仮勘定の支払増加
関係会社株式の取得による支出	△23	-	23	前期は、㈱ＤＰＰヘルスパートナーズへの出資20
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	54	-	△54	
その他	△9	△9	0	
財務活動によるキャッシュ・フロー	**△39**	**△12**	**27**	
短期借入金の純増減額	100	80	△20	
自己株式の取得による支出	△52	△0	52	
配当金の支払額	△62	△61	1	
リース債務の返済による支出	△18	△24	△7	
その他	△6	△6	-	
現金及び現金同等物に係る換算差額	**△0**	**0**	**0**	
現金及び現金同等物の増加額	**△41**	**105**	**146**	
現金及び現金同等物期首残高	**238**	**197**	**△41**	
現金及び現金同等物期末残高	**197**	**302**	**105**	

1-7. 2012年3月期 予想数値と実績値との差異

	2012年3月期（2月8日予想）		2012年3月期（実績）		増減額（百万円）	増減率（%）
	金　額（百万円）	構成比（%）	金　額（百万円）	構成比（%）		
売上高	2,220	100.0	2,147	100.0	△73	△ 3.3
売上原価	1,131	50.9	1,120	52.2	△11	△ 1.0
売上総利益	1,089	49.1	1,027	47.8	△62	△ 5.7
販売管理費	982	44.2	957	44.6	△25	△ 2.5
営業利益	107	4.8	70	3.3	△37	△ 34.6
経常利益	100	4.5	58	2.7	△42	△ 41.7
当期純利益	50	2.3	18	0.8	△32	△ 64.9

前回発表時に予定しておりました医療関連情報サービスの大型案件の受注が契約に至らず、売上高、営業利益、経常利益および当期純利益が、いずれも前回発表予想数値を下回りました。

目 次

1. 2012年3月期 連結業績概要

2. 2013年3月期 連結業績予想

1 2013年3月期 連結業績予想

2 2013年3月期 サービス・製品別連結予想売上高

3 国民健康保険向け営業戦略と目標契約保険者数

4 国民健康保険の保健事業に対する助成について

5 保険薬局向けシステムの発売時期の遅れの影響

6 2013年3月期 連結営業利益要因分析（対前年比）

3. 「ヘルスケアやまと」の展開と中期目標

2-1. 2013年3月期 連結業績予想

	2012年3月期（実績）		2013年3月期（通期業績予想）		増減額（百万円）	増減率（%）
	金　額（百万円）	構成比（%）	金　額（百万円）	構成比（%）		
売上高	2,147	100.0	2,400	100.0	253	11.8
売上原価	1,120	52.2	1,400	58.3	280	25.0
売上総利益	1,027	47.8	1,000	41.7	△27	△ 2.7
販売管理費	957	44.6	992	41.3	35	3.6
研究開発費	110	5.1	86	3.6	△24	△ 21.6
営業利益	70	3.3	8	0.3	△62	△ 88.6
経常利益	58	2.7	5	0.2	△53	△ 91.4
当期純利益	18	0.8	0	0.0	△18	△ 100.0
包括利益	19	0.9	0	0.0	△19	△ 100.0

2-2. 2013年3月期 サービス・製品別連結予想売上高

	2012年3月期（実績）		2013年3月期（通期業績予想）		増減額（百万円）	増減率（%）	主な要因
	金　額（百万円）	構成比（%）	金　額（百万円）	構成比（%）			
保険者向け情報サービス	894	41.6	1,230	51.3	336	37.6	新サービス「ヘルスケアやまと」を、国民健康保険に拡販
製薬会社向け情報サービス	34	1.6	22	0.9	△12	△ 35.7	
医療関連情報サービス 計	**928**	**43.2**	**1,252**	**52.2**	**324**	**34.9**	
保険薬局向けシステム	762	35.5	652	27.2	△110	△ 14.4	次バージョンの発売の遅れで減少
病院向けシステム	333	15.5	351	14.6	18	5.6	
その他	109	5.1	128	5.3	19	17.4	
医療関連情報システム 計	**1,204**	**56.1**	**1,132**	**47.2**	**△73**	**△ 6.0**	
医療関連情報事業 計	**2,133**	**99.3**	**2,384**	**99.3**	**251**	**11.8**	
その他	14	0.7	16	0.7	1	9.4	
売上高　合計	**2,147**	**100.0**	**2,400**	**100.0**	**253**	**11.8**	

2-3. 国民健康保険向け営業戦略と目標契約保険者数

①営業戦略

・大規模自治体への展開
・東京オフィスによる東日本エリア営業展開
・都道府県単位および近隣市町村単位など地域単位での契約拡大

2013年3月期末
目標契約保険者数
175保険者

2012年3月期末
契約済保険者数
107保険者

2011年3月期末
契約済保険者数
48保険者

②ヘルスケアやまとの拡販

・日本で初めての費用対効果の見える保健事業支援サービス
・保険者の手間の不要なフルアウトソーシングサービス
・国の助成金の対象

2-4. 国民健康保険の保健事業に対する助成について

2012年4月6日付 厚生労働省より国民健康保険の保健事業に対する助成についての通達がありました。

「国民健康保険の保健事業に対する助成について」(保国発0406第1号)

「平成24年度国民健康保険保健事業にかかる助成内容」より抜粋

Ⅲ.助成の内容

2. 国保保健指導事業 ＞ (1)事業内容 ＞ ②国保一般事業 ＞ ウ 保健指導

○重複・頻回受診者への訪問指導

○生活習慣病重症化予防に重点を置いた取組(被保険者の同意のもと、服薬中の者や受診勧奨値の者等への、医療機関等と連携した保険者による保健指導)

2. 国保保健指導事業 ＞ (5)助成限度額

被保険者数	1万人未満	1～5万人未満	5～10万人未満	10万人以上
助成限度額	400万円	600万円	800万円	1,200万円

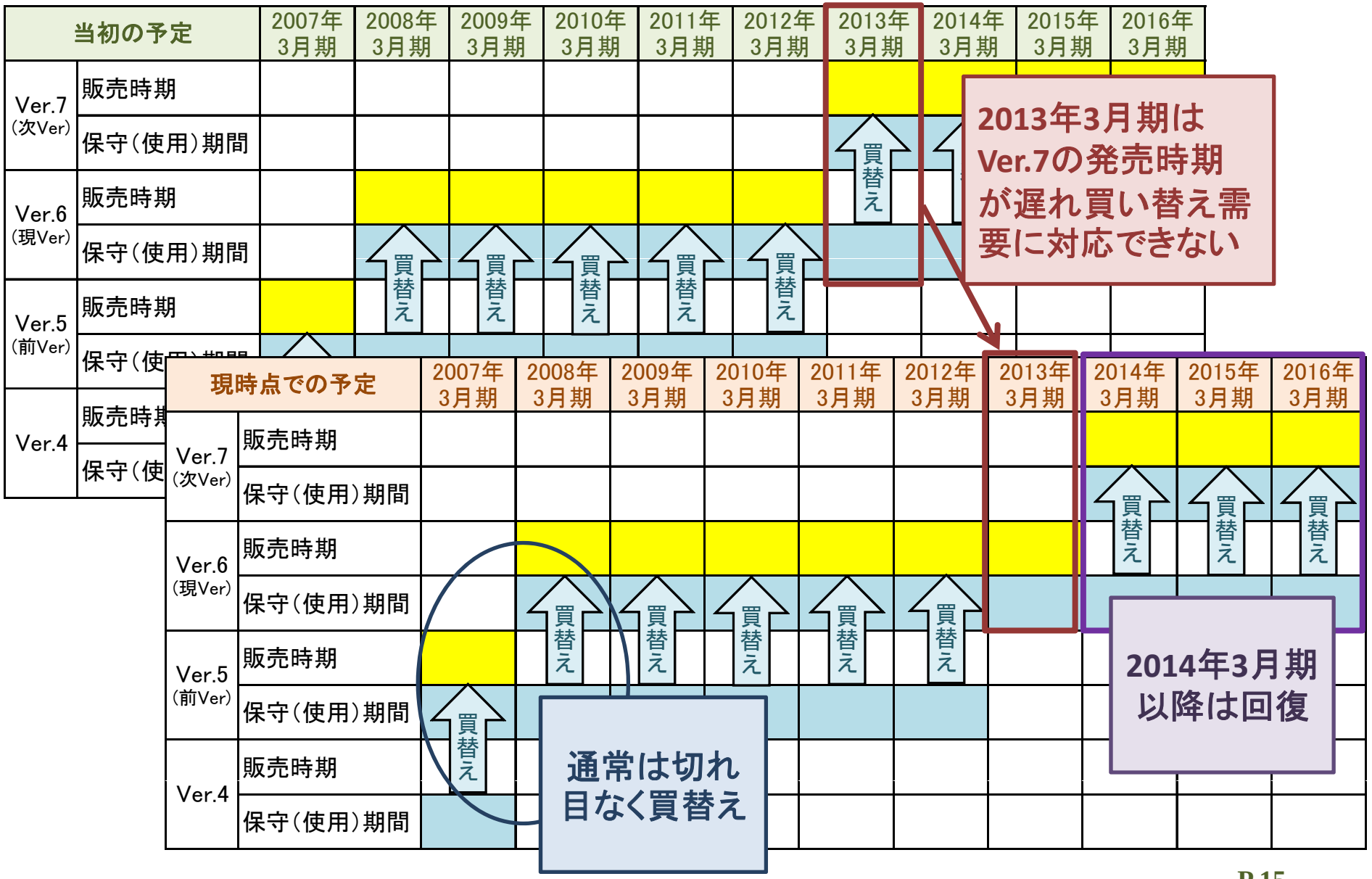
※資料は以下の国民健康保険中央会のホームページからご覧になれます。

ホーム ＞ 厚生労働省情報 ＞ 通知等 ＞ 国民健康保険課

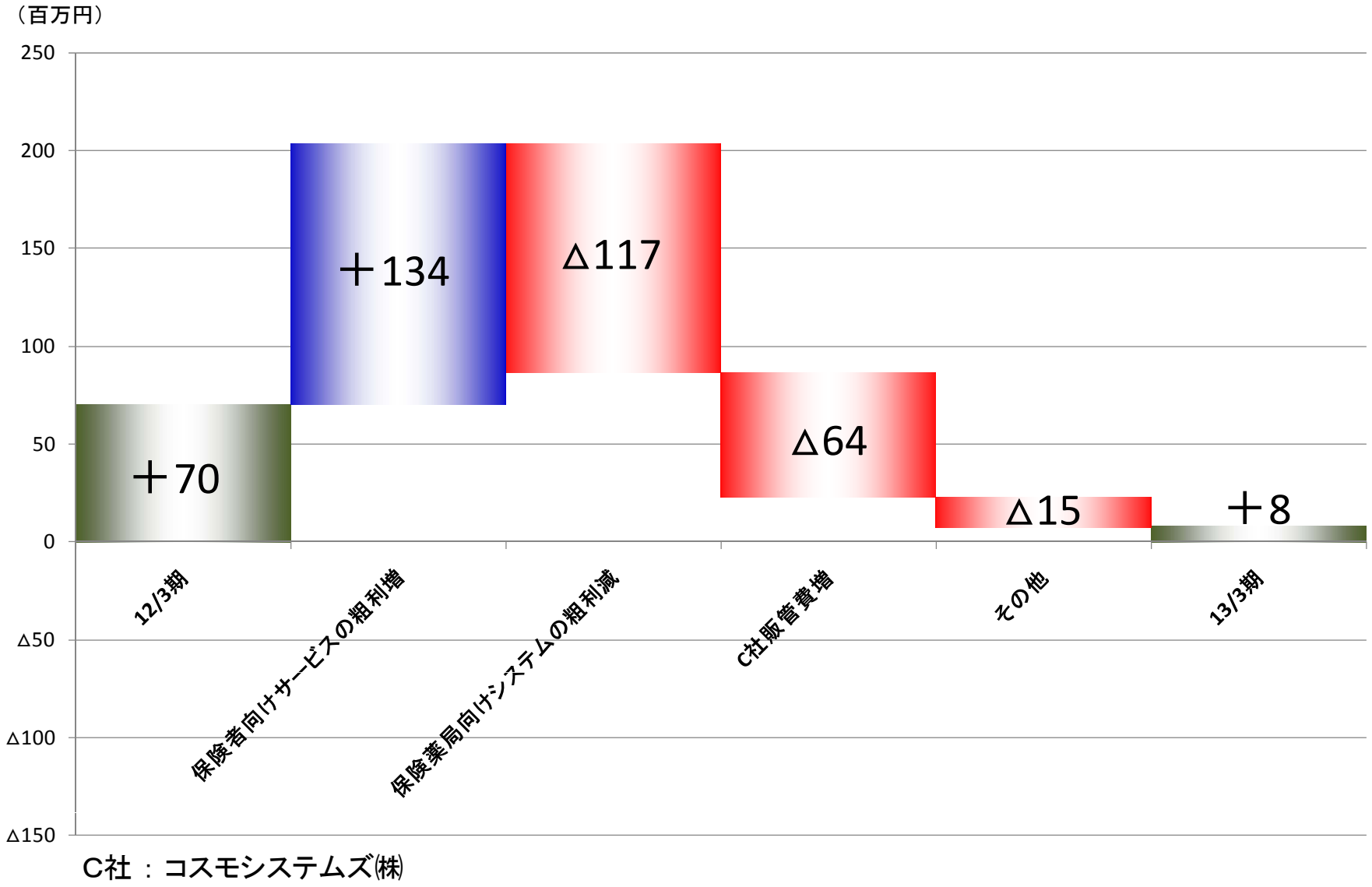
または次のURLでご覧ください。

http://www.kokuho.or.jp/whlw/inf_03.html

2-5. 保険薬局向けシステムの発売時期の遅れの影響



2-6. 2013年3月期 連結営業利益要因分析(対前年比)



C社 ： コスモシステムズ㈱

目 次

1. 2012年3月期 連結業績概要

2. 2013年3月期 連結業績予想

✓ 3. 「ヘルスケアやまと」の展開と中期目標

1 「ヘルスケアやまと」が求められる背景
2 「ヘルスケアやまと」サービスとは
3 「ヘルスケアやまと」サービスのイメージ図
4 糖尿病重症化予防サービスの効果
5 糖尿病重症化予防サービスのアンケート結果（広島県呉市）
6 ジェネリック医薬品通知サービスにおける切替率の実績（広島県呉市）
7 医療関連情報サービス事業の売上高中期目標

3-1.「ヘルスケアやまと」が求められる背景

【 日本における糖尿病の現状 】

患者一人当たり年間医療費 数百万円～

日本全体の糖尿病関連医療費は、
明らかなものだけで2兆円！



日本の総人口
1億2,700万人

一次予防
（保健指導）

2,210万人



糖尿病予備軍
1,320万人



糖尿病
890万人

重症・
合併症

年間に、
失明 3,000人、
透析 10,000人が増加！

非通院者（400万人）
二次予防
（受診勧奨）

通院者（490万人）
専門医（４千人）に100万人が通院

三次予防
（重症化予防）

低リスク

４９０万人の通院者

高リスク

非専門医に390万人が通院

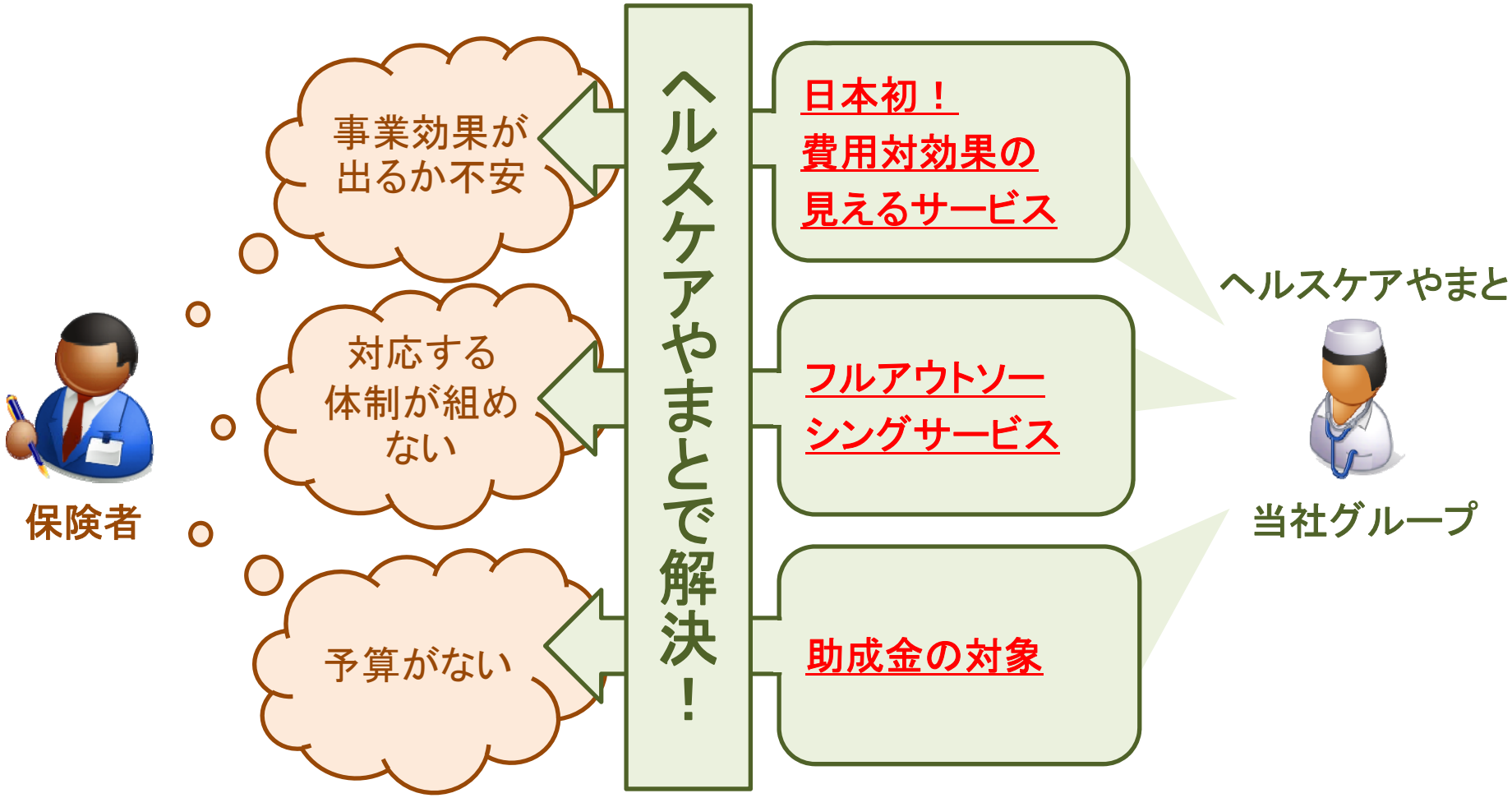
2008年度
厚労省通知※
保険者による重症化予防が可能に

（人数については、厚生労働省　平成19年度国民健康・栄養調査、平成14年度糖尿病実態調査より）

※「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針等の一部改正について」（2009年3月31日保発第0331013号）
「健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針等の一部改正について」（2009年3月31日保発第0331014～6号）

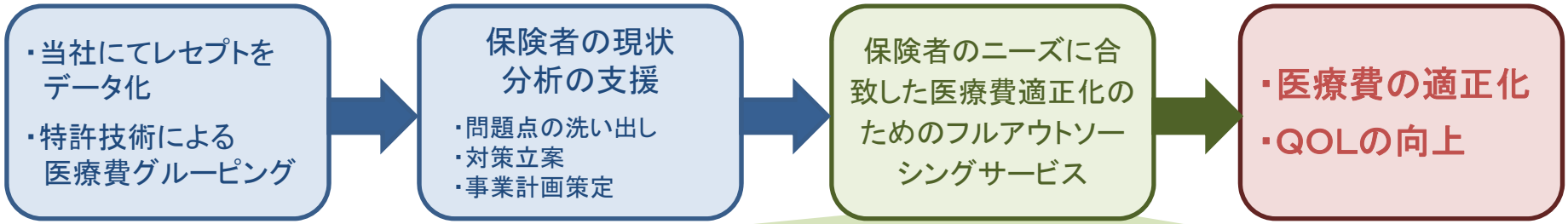
3-2.「ヘルスケアやまと」サービスとは

医療費適正化を目指す全国の自治体から注目されている
広島県呉市の保健事業をパッケージ化したサービス



DATA HORIZON

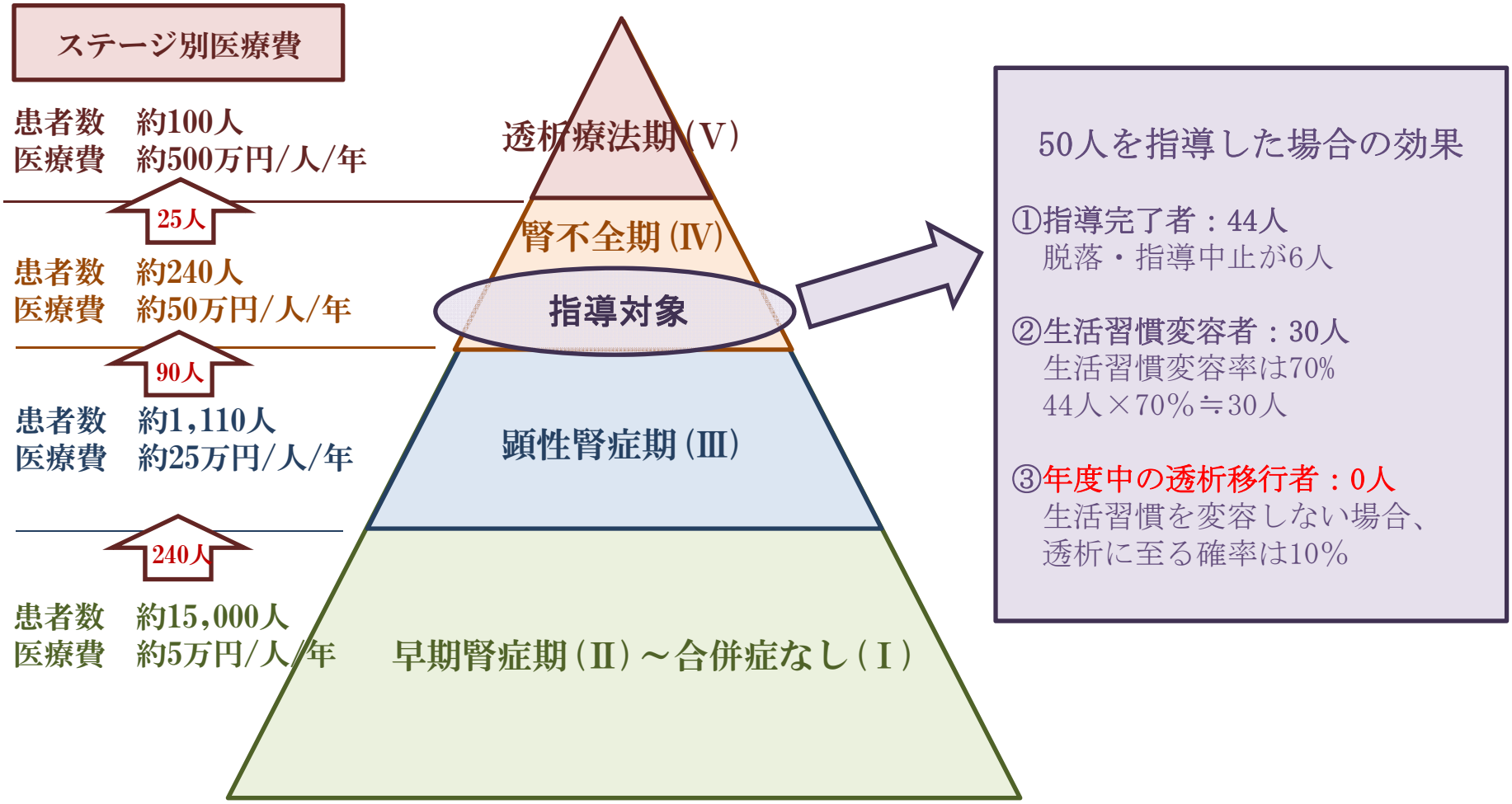
3-3.「ヘルスケアやまと」サービスのイメージ図



サービス名		サービス概要	効果額・指導対象者数 ※
保健事業支援サービス	糖尿病重症化予防	糖尿病の重症化を防ぐことで対象者のQOLを維持し、同時に医療費の高額化を防ぐサービス	指導対象者数 **50名/年** 年度中の**透析移行者 0名** ・生活習慣を変容しない場合、1年後の透析移行確率約10%リスクの対象者
	受診勧奨指導	生活習慣病や健診異常値などを放置している対象者に受診勧奨を行うサービス	指導対象者数 **300名/年**
	頻回受診者指導	医療機関の受診回数が多すぎると思われる対象者に指導を行うサービス	指導対象者数 **200名/年** 医療費削減効果 **1,525万円/年**
	重複受診者指導	同一疾患で複数の医療機関にかかっている対象者に指導を行うサービス	
	重複服薬対象者指導	同じ薬の処方が同一月に複数ある対象者に服薬の指導を行うサービス	
	薬剤併用禁忌対象者抽出	薬の飲み合わせに問題があると思われる対象者を抽出するサービス	対象者数 **55名/年**
ジェネリック医薬品通知		服用している薬をジェネリック医薬品に切り替えることを勧めるサービス コストは郵便代(80円/通)のみ	薬剤費削減額 **1億1,400万円/年**

※効果額・指導対象者数は呉市(被保険者数56,000人)の平成22年度実績より算出しています。

3-4. 糖尿病重症化予防サービスの効果



1年間に重症化して次のステージに移行する人数

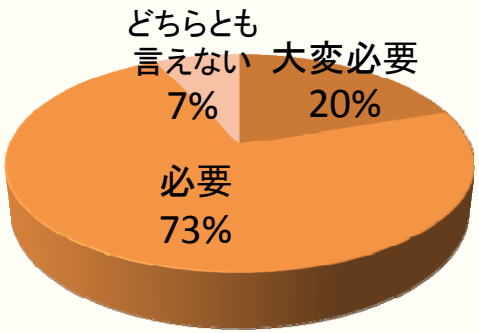
※重症化予防サービス事例におけるデータの10万人規模換算モデルケース（平成22年12月末分析値）

3-5. 糖尿病重症化予防サービスのアンケート結果（広島県呉市）

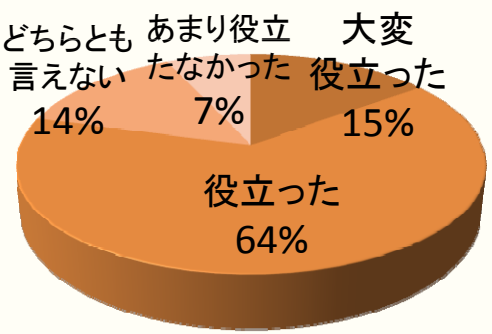
呉市の医療機関・患者の双方から高評価！

医療機関からの評価

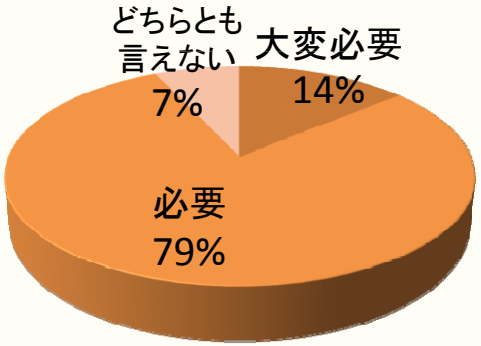
当プログラムは患者に必要だと思いますか？



当プログラムは診療に貢献しましたか？



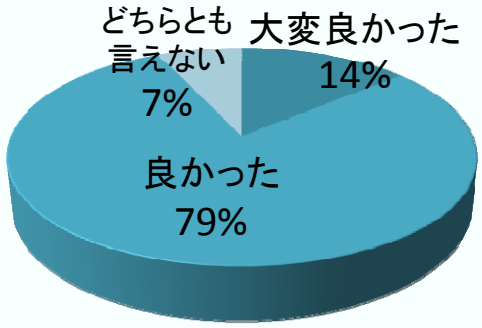
事業として必要と思いますか？



- 多くの医師は患者にとってプログラムが「必要」と回答しており、プログラムの意義と実践を評価
- 「血糖・血圧管理が不良で腎機能低下のリスクが高い対象者を抽出しプログラム開始する方がよい」などの意見も寄せられ、更なるプログラムの充実を求められている。
- 看護師との連携は、64.3%の医師が良好であったことを評価

患者からの評価

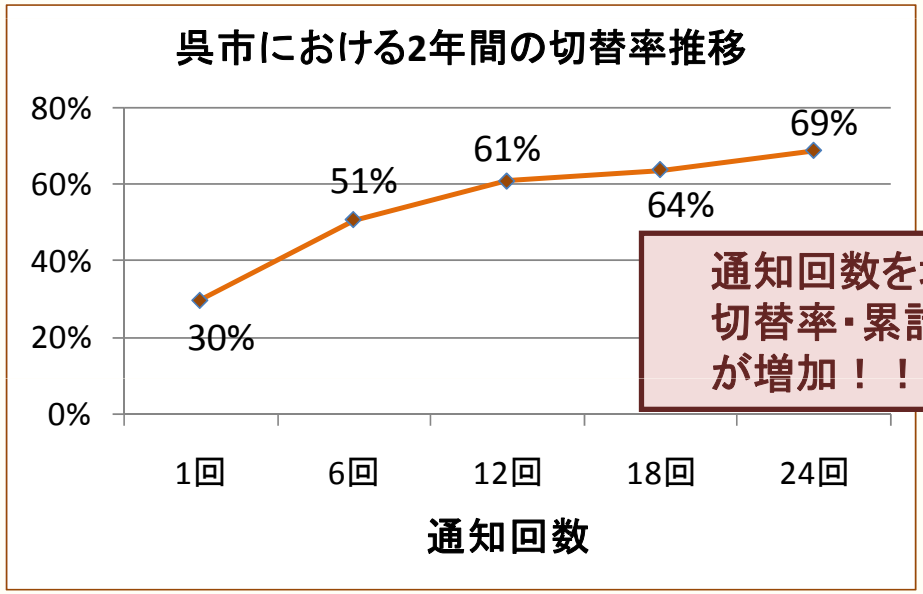
当プログラムに参加してどうでしたか？



- 「自分1人では閉じこもるので、看護師が定期的に連絡して相談してくれるのはよい。」「自分を見直すにも良い。」
- 「記録を見てくださる人がいて、長続きできる。」
- 「元気であるための日々の生活習慣についての動機づけ・意識づけが出来たことはとても良かった。」
- 「腎臓の機能、検査結果の数値の意味及び健全な日常生活の必要性を改めて確認する事が出来た。」
- 「無理のない範囲で一緒に目標設定をしてくれるのが励みになった。」
- 「なかなか数値が良くならなくても辛抱強く一緒に考えてくれることが良かった。」

3-6. ジェネリック医薬品通知サービスにおける切替率の実績（広島県呉市）

広島県呉市における平成20年7月から平成22年6月までの、累計切替者数推移です。
被保険者数約6万人、毎月4%程度に通知しています。



毎月連続通知することで2年後には、累計通知者の70%が切替えました。

通知回数を増やす事で切替率・累計切替者数が増加！！！

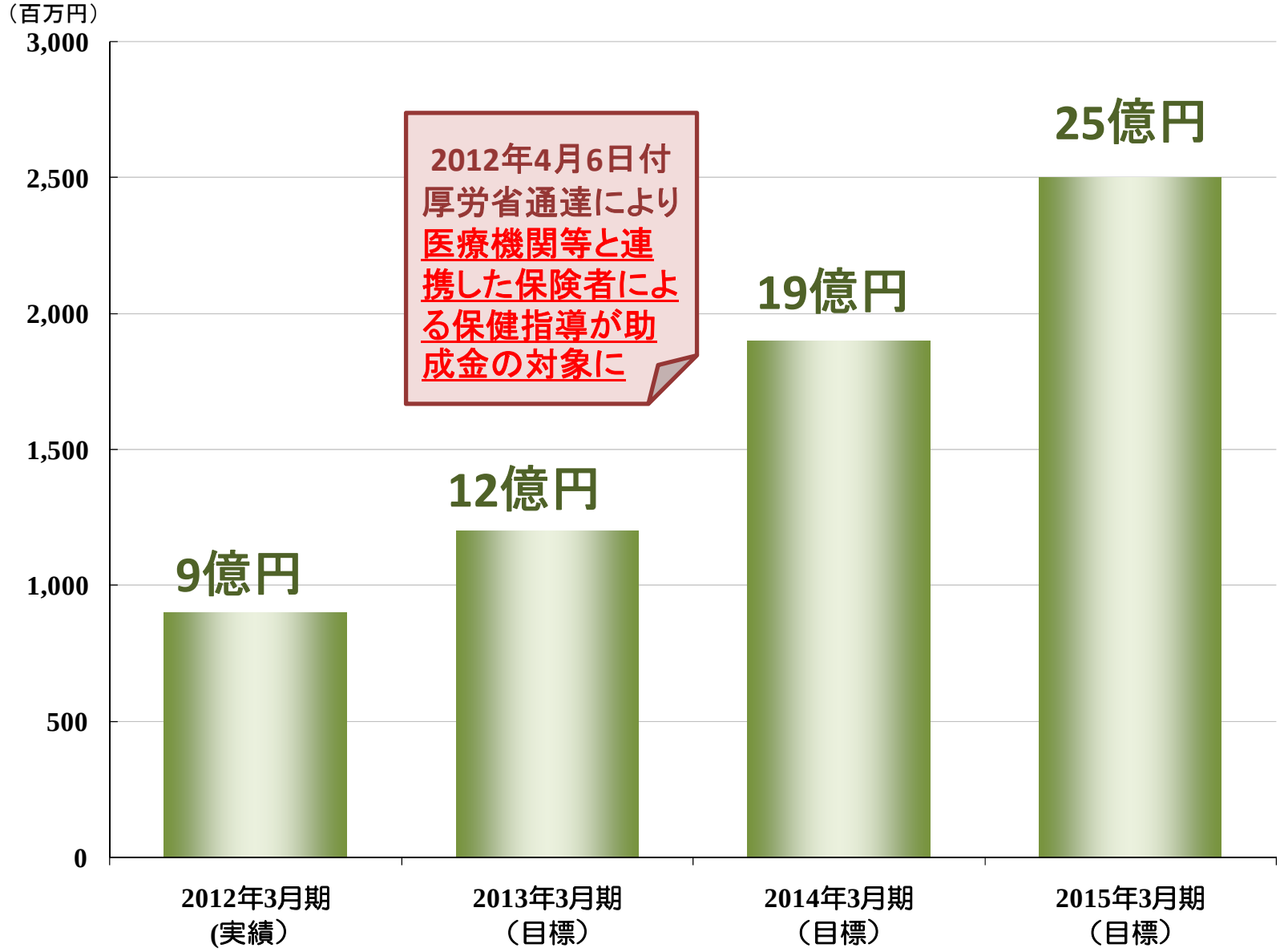
薬剤費削減額
1億14百万円
（H22年度実績）

切替率の変化

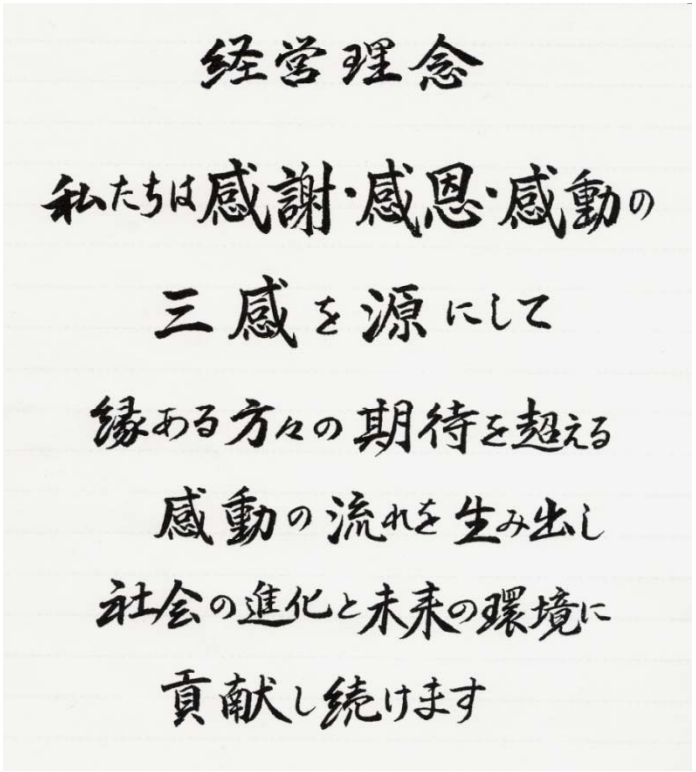
診療月	平成20年						平成21年												平成22年					
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
通知回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回	16回	17回	18回	19回	20回	21回	22回	23回	24回
通知者数累計	2,970	6,427	9,594	11,528	11,772	11,899	11,978	12,183	12,405	12,564	13,269	13,704	14,302	14,830	15,456	15,926	16,430	16,813	17,152	17,540	17,940	18,281	18,637	18,896
切替者数累計	897	1,815	2,862	3,448	5,496	6,079	6,520	6,906	7,299	7,620	8,024	8,386	8,786	9,144	9,537	10,013	10,432	10,830	11,176	11,572	12,015	12,447	12,790	13,123
切替率	30%	28%	30%	30%	47%	51%	54%	57%	59%	61%	60%	61%	61%	62%	62%	63%	63%	64%	65%	66%	67%	68%	69%	69%

※切替率：累計切替者数÷累計通知者数

3-7. 医療関連情報サービス事業の売上高中期目標



経営理念



経営理念のもと、大型設備投資の必要が無く身軽に事業展開できるシステム開発会社の大きな特長を生かして、常に新しい製品・サービスの開発を行い、自ら市場の変化を作り出し、その変化の先頭に常に立ち続けることを基本方針としています。

現在、日本は、医療費の増大、人口減少・少子高齢化社会といった問題に直面しています。

当社グループは、医療関係の製品・サービスを通じて、日本の医療費の適正化のみならず、国民の健康増進（Quality of Life）に貢献することを目指しています。

将来見通しに関する注意事項

- 本説明会及び本説明資料には、データホライゾンの将来についての計画や戦略、業績見通し等の記述が含まれております。
- これら将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。
- 実際の業績等は様々な要因により、当社の見通しとは異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

◆ 本資料に関するお問合せ先 ◆

株式会社 データホライゾン　広報室

TEL：03-3201-0511